体験談①

# 「こんなふうに働けたらいいな」と思う職場

## ―「働く人間」と間近に接することのできる機会―

三重大学大学院
人文社会科学研究科１年
佐藤さほさん

インターンシップ先：株式会社百五経済研究所

### ■大学の紹介で、専攻に関連した業種に

私は、今年8月の後半から2週間（実質10日間）の日程で、調査・コンサルティング業務を行っているシンクタンクである㈱百五経済研究所でインターンシップ体験をしました。

インターンシップというものがあることは以前から知っていました。私は学部の時に経験できなかったので、今回やってみたいと思ってゼミの先生に相談したところ、いいところがあると紹介されたのがこの百五経済研究所でした。

大学院では社会学を専攻していて、調査を行うこともあり、それにも役立つといいなと思っていましたが、私の場合、授業として行ったわけではなく単位取得とも無関係です。

結果として、「働く」ということ、「仕事」というものを考えるためにも、就職活動の準備のためにも、また、自分の専攻分野の研究のためにも役立つ、非常に有意義な経験をさせていただいたと思います。

### ■マンツーマンで丁寧な指導

百五経済研究所でのインターンシップ生の受け入れは私1人だったこともあってか、10日間とても丁寧にご指導いただきました。

事前にスケジュール表と会社案内をいただき、電話で実習内容について説明を受けていました。ここは銀行系のシンクタンクで、地域の調査・研究、情報提供や経営コンサルティングを主な業務とする、社員二十数名の少数精鋭といった感じの会社です。

まず初日はビジネスマナー研修から始まり、続いて情報収集・発信の方法、統計指標の読み方、企業ヒアリングのノウハウ等、当社が行っている地域調査の概要についてマンツーマンで丁寧にレクチャーしていただきました。

3日目から外に出て地域調査部や経営コンサルティング部の方が行う企業へのヒアリングなどに同行しました。それは、コンサルティングやマーケティングにとても大切な要素だということです。大きな調査が入っている時はインターンシップ生もそれに関わることになるそうですが、私の時期はそれがなかったので少し違ったプログラムで進めてくださったようです。

メーカーの工場見学とヒアリング、社会福祉法人での講演、地域経済に関する検討会議のほか、企業や商工会議所、三重大創造開発研究センター、中部産業活性化センター、中部経済連合会などへの訪問に同行させてもらったわけですが、様々な場所での見聞はそれぞれ興味深いもので、視野が広がったと感じました。実際、人と会って話すことは大切で、面白いものなんですね。

### ■恵まれたインターンシップ体験

私はあまり人見知りしないほうなんですけど、最初に職場に入った時は

さすがに緊張して自分からは話しかけたりできませんでした。それが、皆さんのほうからよく話しかけてくださって、すごく助かりましたね。

職場の方々に感じたのは、オン・オフの切り替えの見事さです。気を抜く時は抜いてリラックスする。仕事の場面に向き合うと即座に「オン」の顔になる。私は常にオフ状態みたいなものなんですけど…。

移動中などにいろいろな話をしてもらったことも、楽しかったですし非常にためになりましたね。おそらくインターンシップでこういう形でお世話にならなければ接することのないであろう方から話を聞けて、それぞれの業務の意味やポイント、社会人として仕事に取り組む姿勢、プライベートの過ごし方など、学ぶことが多かったです。

いろいろな方が出席した外部会議での発言でも、言い方一つで相手に与える印象が変わってスムーズに進行させることができるし、ポイントはきっちり押さえておき、話が逸れたりしても本筋へ軌道修正することで次につながる実のある議論にすることができる。私は聞かせていただいていただけですが、こういうものが「大人の会議」なんですね。

## ■間近にいる「働く人間」

職場の皆さんを見ていると「すごいなぁ」と思うことが多々あり（正直、何がすごいのかよくわかっていない面もあるのですが、とにかく）、「かっこいいな、こんなふうに働けたらいいな」と思える人に接することができた、これはインターンシップに参加しての大収穫なのではないでしょうか。「働く」ことを感じ、知るためには、このように、働く人を間近に見てコミュニケーションがとれることが一番ですね。子どもの頃から今までは「働く人」というのは何か別の世界にいる人みたいに感じていた部分もあったように思いますが、実際にインターンシップで一定期間付き合わせていただくと、自分たちと同じ「人間」が働いているんだなぁ、と実感しましたね。もちろんキャリアを積まれてきているすごい方々ではあるんですけど、職場の雰囲気が温かくてそう感じさせたのかもしれません。

というわけで、体験報告書を作成し、最終日に役員の方たちを前に報告会で発表させていただき、10日間のインターンシップは終わりました。とても充実し満足できたこの10日間は、期間としても妥当な長さだと感じました。

## ■就職活動に向けて

私、進路についてはまだ迷ってるんですよね、実は。

学業の専門が教育社会学ですし、教員免許を取っていることもあり、教職にも興味があるんです。ただ、今回の体験で、企業に就職しても「教育」に携わることはできるとも感じました。

また、外に出て人と交渉したりやりとりしたりする、足を使う営業のような仕事は今まであまり考えたことがなかったのですが、デスクワークだけでなく、そういう職種も嫌う必要がないと思いました。今回の体験で視野が広がったんでしょうね。

それから、就職活動をする時というのは、企業の窓口が人事の担当者の方に偏ったりしますよね。でも会社はいろいろな人で構成されているわけで、インターンシップのような形で職場を体験していれば、多少不安が軽減されるのではないでしょうか。

百五経済研究所は受け入れが1名ですし、皆さん懇切丁寧に指導してくださって、いい意味で特別な例かもしれないですが、私はすごくインターンシップ体験をしてよかったと感じましたし、職場の方々にとても感謝しています。学校現場でもキャリア教育が重要視され、中高校生が職場体験に行くようになっている中、教員を目指している人も自分でインターンシップを体験しておくことをお勧めしたいですね。